

歩兵ノ對戰車戰鬪

秘

昭和  
一五  
九  
三  
金陵部隊寫

1883

曩ニ旧型戦車ニ就キ相當詳細ニ所見ヲ述ヘタリ然レ本新型ベ  
テ一戦車ハ肉薄攻撃ニ對スル弱點ヲ相當程度ニ除去シアルヲ以テ  
前研究ニ多少取捨ヲ要スルモノアルニ至レリ蓋シ第ニ次ノモンハ  
事件當時トハ自敵ノ攻勢時ニ於ケル友軍歩兵ノ戦闘法トニ於テ既ニ  
差異ヲ認ルハ當然ノコトニ屬ス

ハ速射砲ハ敵戦車遠距離ニ停止シテ射撃スル間ハ相手ニスルコトヲ  
勉メテ工事偽装ヲ實施シ遮蔽シ敵ヲ近ク引寄せテ而モ其ノ前進  
中ニ急據進出シテ射撃スルハ敵我ニ對シ停止射撃ヲ開始シ有効  
射撃ヲ受クニ至ラハ遮蔽又ハ遮蔽下ニ陣地ヲ換フナスヲ可トス

敵戦ハ二千乃至五百米ニ於テ適確有効ナル射撃ノ實施可能ニ  
シテ本次事件ニ於テモ到ル所之ヲ實證セリ敵ノ行進間射撃ハ多  
ク搜索制圧射撃ニシテ命中確實ナク一ニ有効彈丸モ意ニ介スル  
コトナク此ノ機會ニ射撃スルハ本次事變ニ於テ敵行進間敵ヨリ  
有効射撃ヲ受ケルモノアリト云フモ之レ行動戦車ノ射撃ニアラスレテ

他ノ停止戰車ノ射撃力カ如シ(某少佐体験談ニ依ル)

速射砲ハ射撃準備ヲ完全ニシテ一度出テ射撃スルヤ初一發ヨリ命中ヲ期スルコトニ徹底セサルヘカラス

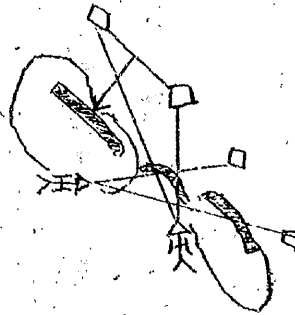
本事件ニ於テ速射砲進出スルヤ敵ハ各戰車ヨリ忽チ有効彈ノ集中ヲ受ケタル例多シ特ニ速成的教育ヲ受ケタル速射砲部隊ハ過早ニ射撃ヲ開始シ未ダ有効射撃ヲ實施セサルニ破壊セラレタリ(某少佐談)

速射砲ノ陣地ハ徹底的工事ヲ施シ豫備陣地偽工事ヲ設ケ偽裝確實ナルヲ要シ又明瞭ナル稜線上等ハ避クルヲ要ス

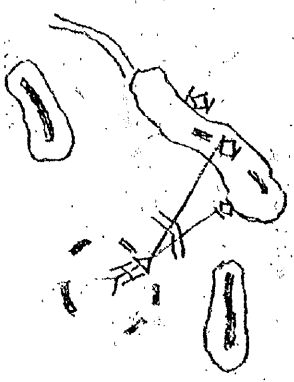
工事ハ正面ノミナラス時間ノ許ス限り側面背後ニ對シテモ施設ヲ要ス本事業ニ於テ敵ハ遠距離ヨリ著明ナル地物又ハ稜線等ニ對シ配兵ノ有無ニ拘ハラス射撃ヲ集中セル所謂探リ射ヲ行フ例トセリ又敵ハ包圍的ニ近接シ其ノ射彈ハ四周ヨリ來リ側背無防護ノ爲メ損害ヲ受ケタルモノ多シ

少数速射砲ヲ以テ多数ノ戦車ヲ攻撃スル時ハ斜射側射ヨリ或ハ反  
 對斜面陣地ヲ採用スル等著意ヲ要ス  
 之カ爲勢ニ遠距離射撃ハ砲兵及隊砲等ニ委スルニ至ルヘシ

例一



例二



機関銃ハ努メラ敵戦ニ對戦スルヲ避ケ隨伴スル歩兵ヲ攻撃スルヲ可トス  
 本新型戦車ニ對スル射撃ハ大ニ効果ナサノミナス却テ敵戦車砲ノ  
 好餌トナリ過早ニ損害ヲ蒙ルノ虞アリ然レドモ敵愈々突入ニ來ル時  
 機ニ至リ敵歩兵ヲ射撃スル必要少キ時ハ敵然鋼心彈ヲ以テ射撃  
 ラ加フヘシ装甲硬度不足ナルヲ以テ貫通彈ノ効果ヲ納メ得ヘシ

陣地選定及設備等ノ著意ハ速射砲ニ於テ述ル所ニ同シ

6. 煙ヲ用ヒ敵ノ射撃ヲ封シ止ムナク我カ有効射距離内ニ接近セシメ對等ノ  
戰鬪ヲ實施スルモ亦將來著意スヘキ事項ナリ

本次事件ハ悉ク敵戰車我カ有効射程内ニ入ルニ先立テ我ニ有効射撃  
ヲ實施シ其ノ近接スルヤ吾既ニ手段ナキニ至レルモノ多シ

7. 歩兵ノ肉薄攻撃ハ本新型戰車ニ對シ稍困難トナレリ故ニ此後ハ特ニ攻  
撃時機ノ作意又ハ選定ニ於テ特ニ著意スルヲ要スルニ至レリ

死傷ノ減少ハ近接ヲ稍困難ナラシメ静音器ノ除去及放熱機構ノ改良ハ  
カンリシ瓶ノ攻撃ヲ困難ナラシメテ手榴彈ノ投擲ハ殆ト効果ナク

履板及軌道ノ堅牢性增加ハ携帶地雷使用ニ方リ地質及踏ム位  
置ノ選定ニ一層注意ヲ要スルニ至レリ

8. 敵戰車突進シ來ラハ勉メテ障礙物ノ後方ニ於テ遮蔽シ敵戰車ノ速度  
遲緩シタル時機敏ニ死傷ニ進入シ身ヲ以テ地雷ヲ投入シ又爆藥ヲ裝入  
シ此ノ際吸着地雷ヲ裝甲板上ニ投擲スルト茲ニ爆藥ヲ起動輪及

第四輪間ニ挿入スルコトハ實施容易且確實ナル破壊法ナリ

9. 煙ノ展張ニ依リ肉薄攻撃ノ時機ヲ作為スルヲ可トス

10. 肉薄攻撃ニ際シテハ隨伴スル歩兵ノ狙撃銃ニ連内ヨリスル拳銃射撃ニ注意スルヲ要ス

本次事件ニ於テ某部隊ニ於テハ七月二日ハルハ河左岸ニ於テ肉薄攻撃班ノ地雷ノ爆發ニ依リ死傷一名ナリシニ拳銃射撃ニ依リ損害数名アリ又別ニ狙撃兵ノ狙撃ヲ受ケタル部隊多シ

11. 防禦的戦闘ニ於テハ極力工事ヲ施シ且ツ情況之ヲ許ササル場合ニ於テモ對戰車壕ハ輕易ナルモノト雖モ構築スルヲ要ス

戰車ハ壕ニ遭遇スルヤ通過能ハズヲ判断スル爲メ一時停止又ハ速度ヲ低下スヘシ

本次事件ニ於テハ敵ハ通過シ得ル壕ト雖モ躊躇シ敵爲前進スルコトナク後退又ハ迂回セル例多シ

12. 肉薄攻撃ハ指揮官ノ堅確ノ意志ノ下ニ統制ヲ保テ實施スルヲ要ス

肉薄攻撃ニ任スルモノカ無統制ニ之ヲ行ヒ狙撃ヲシ又ハ過早ニ  
進出シテ好餌トナリタル例アリ

夜間敵中ニ潜入シ寄襲ニ依リ一撃ニ多数ヲ破壊スルハ重要ナル撲  
滅手段ニシテ将来國軍ニ於ケル最良ノ肉薄攻撃手段タルヘシ

從來研究セラレアル所ナルモ愈々晝間ノ攻撃困難性ヲ加アルニ方リ  
眞剣ニ研究訓練スルニ要スル事項ナリ蓋シ夜間ハ戰車ノ特性發揮  
不可能ナルニ伴ヒ益々弱點ヲ増大スルヲ以テナリ夜間ノ戰車攻撃ハ寄  
襲ニ依ルハ勿論ナルモ附近ニアル掩護兵ノ驅逐ニ著意シ部署ヲ決定スル  
コト必至要ナリ

本次事件ニ於テ末期之カ實施ニ関シ既ニ企圖セラレタルモ實施ニ  
至ラズシテ休戦ニ至レルハ遺憾トスル所ナリ

之ヲ要スルニ步兵ノ對戰車攻撃ハ從來ニ比シ稍々困難性ヲ生シ  
タルノ感アルヲ以テ裝備ノ研究ト共ニ更ニ攻撃法ヲ研究訓練  
スルノ要切ナルモノアリ